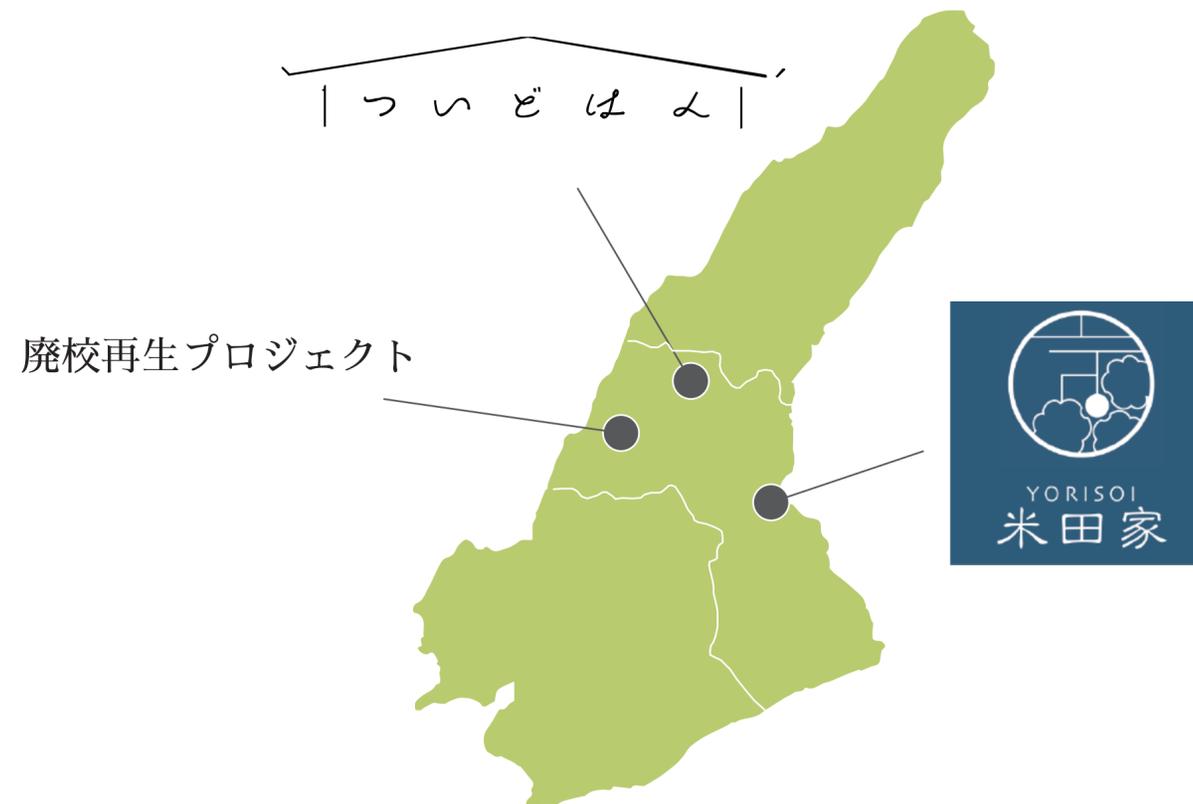


京都工芸繊維大学 × 洲本市

洲本市では、平成 25 年から域学連携事業に取り組んでおり、その一環として、京都工芸繊維大学との連携で古民家と廃校のリノベーションに取り組んでいます。



ついではん ～未来をはぐくむ古民家～

京都工芸繊維大学 × 洲本市



■再築古民家の概要

里と海の魅力発信拠点整備事業

- ・所在地：兵庫県洲本市鮎原下 511
- ・築年数：109年（明治42年棟上げ）
- ・延べ床面積：264.92㎡



■古民家の良さを残した設計

玄関を入ってすぐを吹き抜けにすることで、立派な大黒柱や小屋組みを古民家の長所として載せました。また、以前の間取りを意識し、柱や梁、鴨居も残すことのできるものはそのまま活用しています。

■敷地の良さを残した設計

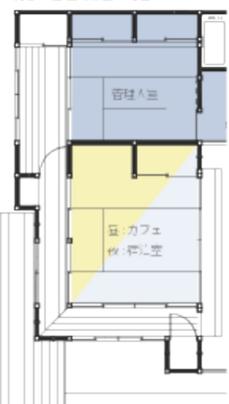
私たちは古民家から眺められる里の風景をこの敷地の魅力であると考えました。そこで、母屋から「里床」と名付けたデッキを延ばし、視界を遮っていたブロックを撤去することで里の風景を楽しめる空間を作りました。

■多様な使われ方を考慮した平面計画

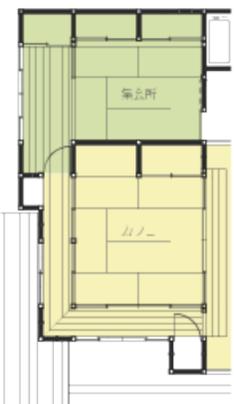
今まで使われてきた様に、今後も末長く愛される建築になる様に、多様な活用方法を想定し設計しました。時代の流れに合わせ、必要とされる用途として使われていくことで、長く活用されると考えます。



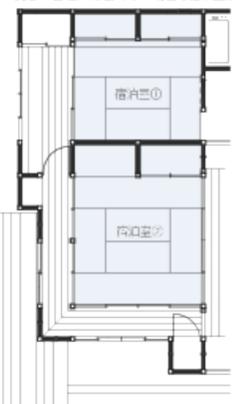
例① 管理人常駐の場合



例② 管理人常駐でない場合(集会所)

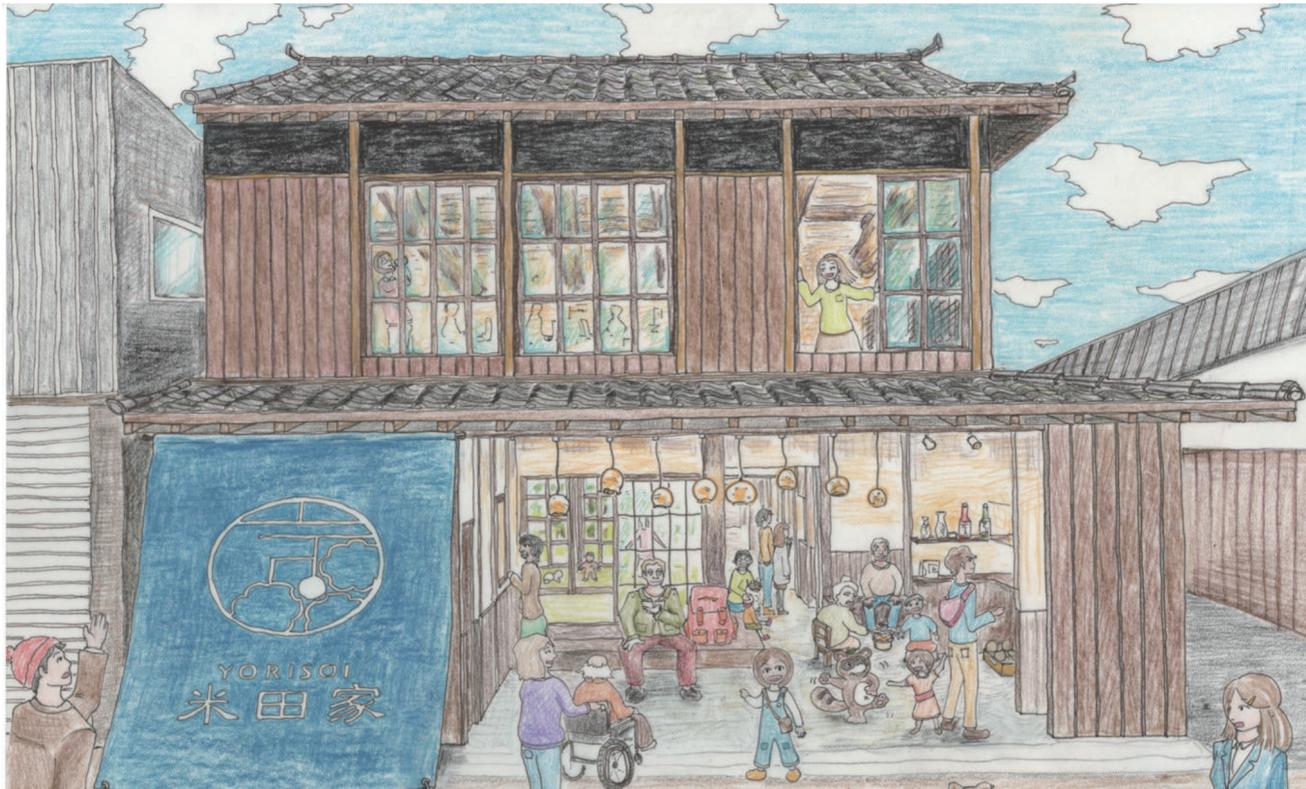


例③ 管理人常駐でない場合(宿泊室)



YORISOI 米田家

京都工芸繊維大学 × NPO 法人淡路島 SPO 支援センター



1階 就労支援の方々の作業室

出光興産創業を支えた日田重太郎氏の次男が暮らし、洲本市本町7丁目商店街で砂糖問屋や商店として親しまれた築100年を超える古民家が子ども・若者・観光客・地域創生の起業家やワーカーの寄り添いの場に生まれ変わりました。

■古民家の魅力を提案

阪神淡路大震災で大きく傾いた建物を耐震補強し、町屋特有の土間・中庭・離れ・蔵の間取りや飾り窓、檜の柱を活かした改修をしました。2階は低い天井板を取り、淡路島特有の様式の立派な小屋組みをみせる開放感な空間をつくりました。改修工事の際は、壁塗装ワークショップ、お掃除ワークショップ、ランプシェードづくりワークショップを開催し、他大学の学生、地域の子供達と共に作業を行いました。



2階 子ども図書館



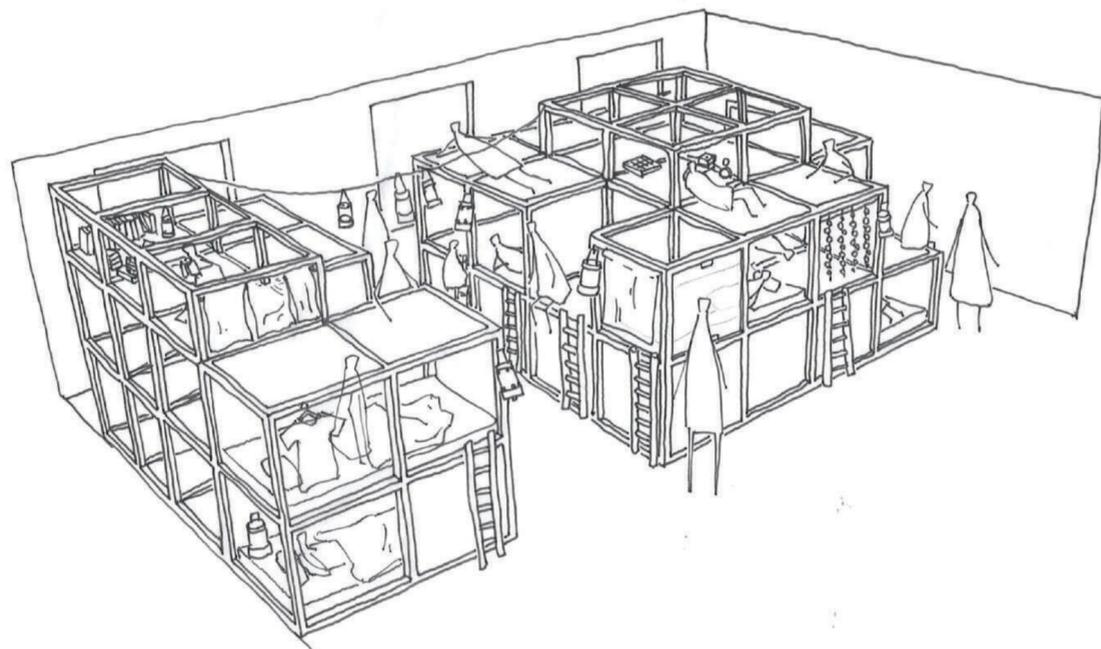
黒板壁施工



土壁左官 WS



廃校リノベーション



2011年に廃校になった県立淡路特別支援学校の跡地。廃油回収やリサイクル事業などを行う浜田化学さんによっていろんなモノやコトのリサイクルの拠点とするためにリノベーションしました。農業体験者が宿泊するためのドミトリーとして教室の1室の改修作業に取り組みました。



洲本域学連携研究所

域学連携を体系的に研究する NPO 法人を設立します。域学連携の大学間での連携の促進や学生の活動のサポート、活動の発表の場の整備、学生の活動期間中の滞在場所の提供を事業として取り組みます。

■主な事業活動

- ・域学連携史編纂事業
- ・域学連携学会事業
- ・域学連携関係者交流事業
- ・域学連携拠点整備事業（学生の宿泊施設）
- ・その他域学連携全般のサポート、推進

■プランニング

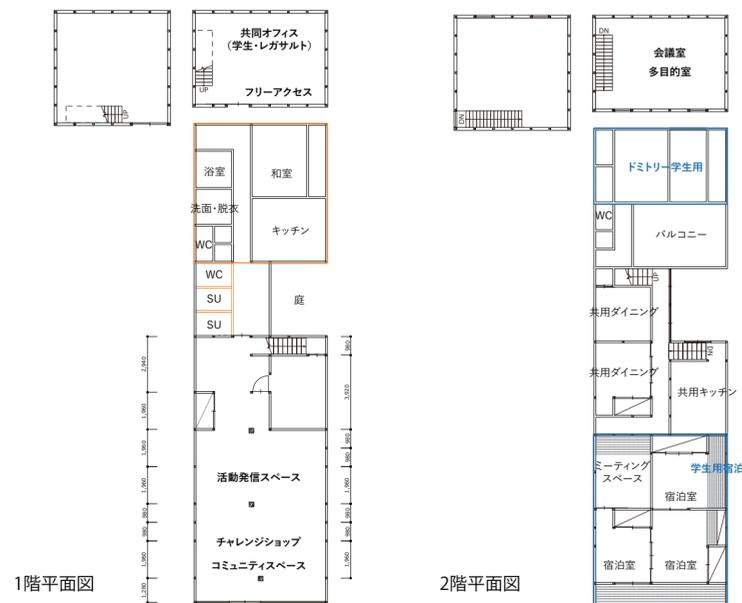
洲本市の本町7丁目商店街にある物件を活用して、学生たちが宿泊できる活動拠点をつくります。

活動を発表、展示できるスペースやプロジェクトの会議ができるスペース、域学連携にまつわる資料庫などを設けます。



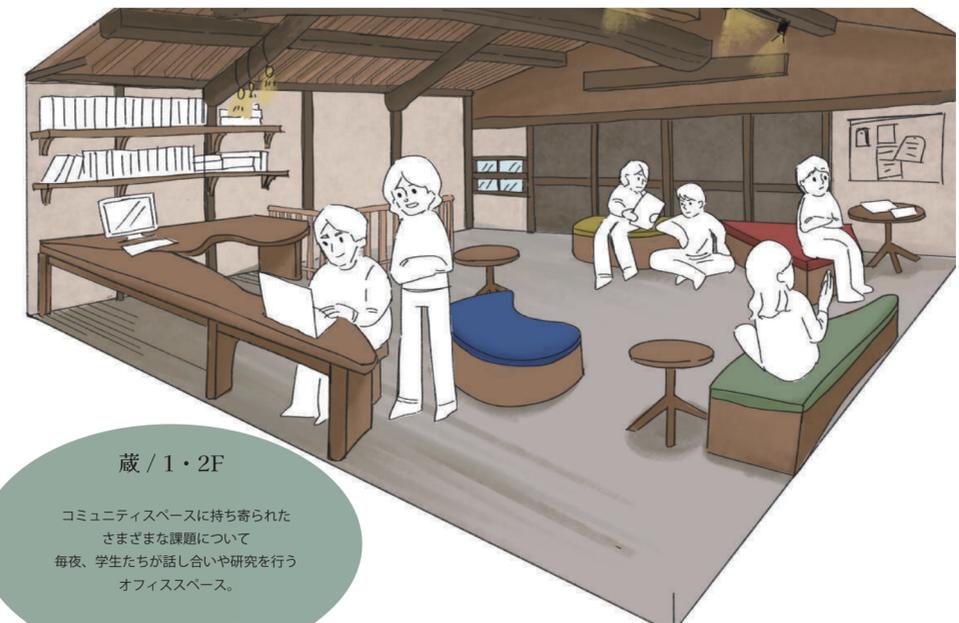
コミュニティスペース / 1F

地域のコミュニティスペースとして顔になる空間を作ります。洞窟のような、ちょっと入ってみたいくなるワクワクした空間で、地域の人と学生が和気あいあい、様々な暮らしや生活、街のことについて井戸端会議をするスペースです。



1階平面図

2階平面図



蔵 / 1・2F

コミュニティスペースに持ち寄られたさまざまな課題について毎夜、学生たちが話し合いや研究を行うオフィススペース。